

令和六年五月吉日初版作成

宇宙の法則に乗る

高嶋善三郎

目次

- 宇宙神のみ心に、自己の想念波動を合わせる・・・3
- 常に大調和に向かって進化発展するという絶対法則・・・3
- 人間は、霊身の働きの一つの枝・・・4
- 宇宙の法則に乗る方法・・・5
- 宇宙の法則に乗ることによる成果・・・6
- 神聖と肉体エネルギーの共鳴現象をつくる・・・6
- 蓄積されたエネルギーを大光明の共磁場から引きだす・・・7

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせください。

（スマホ）090-3346-6619

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

宇宙神のみ心と、自己の想念波動を合わせる

宇宙の法則に乗るといふことは、どういふことなのでしょう。神我一体や覚醒するとか、把われなくなるなどの概念とどう違うのでしょうか。もう少し詳しく説明してくださいというご質問がありました。その答えを整理してみましよう。

結論から言えば、神我一体や覚醒するとか、把われなくなるなどと宇宙の法則に乗るといふことも、人間の真の救い（魂の救われ）を表す言葉です。強いて違いを言えば、神我一体や覚醒するとか、把われなくなるなど表現は、守護神（愛の神）としての宇宙神によって業想念に把われ苦しんでいる肉体人間（魂魄）が自己の神聖を取り戻していくプロセスの意味合いがあり、一方宇宙の法則に乗るといふ表現は、神聖に目覚めた肉体人間が宇宙の法則を駆使し、自らの天命を完うさせていくプロセスの意味合いがあります。後者は『老子講義』の第四講（天地は不仁なり）による、「端的に言えば、宇宙神のみ心のひびきに、自己の想念波動を合致させてゆくこと」別な言葉でいえば霊身の自身を主

なる存在として、肉体身の自己を後回しにした生活をしてゆくことだと
言及されています。

常に大調和に向かって進化発展するという絶対法則

ではまず、宇宙の法則について、整理してみましよう。

●五井先生著『神への郷愁』において「この宇宙は、すべては大智慧、大能力のある中心者によって動かされているものであって、大宇宙の星辰から人類、動物、山川草木、あらゆる存在が大調和の法則によって自らが保たれている」ということであり、「各自が己の置かれた立場において、大宇宙の運行に沿って働いている、という大原則によって運行されているのである。この法則に背（そむ）けば、その存在者は（自ら）消滅してゆくより仕方がなくなるのである。それはこの顕れの世界のことばかりでなく、人間の五感に触れぬ他の波動の世界においても同じ法則によって動かされているのである。」

●昌美先生の『神示1997年5月18日（富士聖地における）人類即神也の印による世界各国の平和の祈り」の参加条件』において、「宇宙究極のエネルギーは、人間を通過せず、今生に現れることは絶対にあ

りえない。人間の肉体は、神に似せられて作られし極めて高度なる組織体であるため、宇宙神そのものの至高のエネルギーを媒体におさめ、知覚し、肉体のヴァイブレーションと合体し、変形させ、それによって、全人類に対して神の無限なるすべてを表現し示してゆく。」

●『老子講義』第九講（弊るれば則ち新たなり）において「病気や不幸や、国と国との間では戦争などという、弊れる状態は、私たちの古い自己の習慣性、古い事物への把われの想念波動が、消されてゆく姿として起こっている。これは、常に自己なり、人類なりを高め深めて、真実の神の子と成し、神の世と成すための、神のみ心としての新陳代謝の原理なのである。」「宇宙子科学的に言えば、この地球世界も精神と物質の調和によって成り立っているが、この精神と物質はそれぞれの宇宙子（波動）によって構成されており、常に新陳代謝していて、瞬々刻々古いものと新しいものが代ってゆくのである。」

この原理を知らないで、いつまでも古い自己や事物には把われていると、その古い自己なり、事物なりを消し去る為に、新しい宇宙子が次々と宇宙心から送りこまれてきて、嫌でも応でも、新陳代謝させられてゆくのである。」

●私たちの日常の想念行為においても宇宙の法則にもとづいて、次の

よくなされると言われています。

「この自然の法則というものは人類にも当然あてはまってゆく。憎めば憎まれる、叩けば叩かれる」というように、自らの発する想念波動が、他の同様の波動と交流して、自らに同じような事柄となってかえってくる。即ち自分の運命はすべて自分でつくりだすものであって、自分の不遇を他の人の所為にしてしまったりすることは実に愚かしい。」と。

●神聖は、私達が何を選択するか、また何に意識を集中するかによって、それらを実現するために瞬時にエネルギーを注いでくれる。良い選択等をすれば、いい結果が実現され、一方神のみ心から離れた選択等をすれば、不調和の姿をそのまま現わしてくれる。

人間は、**霊身の働きの一つの枝**

人間が宇宙の法則の軌道から何故外れてしまったのでしょうか。

「天地が悠久なる生命の現われであると同じように、この人間も悠久なる永遠なる生命の現われなのであり、永遠の生命そのものである。その永遠の生命が、人間の霊身として、各人に分かれて、地球をも含めた宇宙世界で、永遠の生命、つまり宇宙神のみ心の現われの為の働きをして

いる。そして、その霊身の働きの一つの枝として、肉体身を現わし、この物質世界の営みもしているのである。

その眞理を忘れて、肉体身だけを人間と考え始めたところから、この世の乱れが生じたのであり、今日の不幸災難というものが生じている」と五井先生は解説されています。

宇宙の法則に乗る方法

宇宙の法則に乗る方法について整理してみましよう。

●これらの神のみ心としての新陳代謝の原理は、五井先生が『消えてゆく姿で世界平和の祈り』のみ教えの根幹の部分と関連付けられ、それにそった生き方としてどのように受けとめてゆくか示されています。

「業想念が（肉体の病状に現われたり、想いに出たりした時は、もうそれは病気が治っている時であり、業想念が消えてしまった時なのであり、それを間違えて、雑念が出て来たり、業想念が出ていると、自分だめだな、と思うけれどもそうではない。もう消えてしまって本心はその時光輝いていゑる。もう過去のことはすべてあったことであり、悪くなりようがない。こゝからみへなぬのだとこゝえぬのである。」と。

『続・如是我聞』226の（ ）として現わされて消えてゆく業想念の内100%について、守護の神霊の力を借りて、己自身で眞理につながり親神様の光の中に融合させ、光に還元することにより、私たちの魂は、より高くより深く浄められ、宇宙の法則に乗れるのである。

●「宇宙の法則に乗る生き方については、拙書『眞の言霊を発し、宇宙の法則に乗る』でも言及していますが、端的にいえば、「消極とか積極とかいう、そういう境界をすっかり超越し切った、空の空の又その奥の空のというような、大生命の根源からこの世に働きかけていた生き方である。」言い換えれば、「人間とは生命そのものであって、肉体は一つの生命の道具であり、生命の現われる一つの場所であることを頭で知っているのではなく、事実として承知している。そして、自己という一つの生命の流れは、奥深いところから、浅い狭いところまで、無限の段階において働きつづけているのであることも知っている。故に浅い狭い肉体頭脳という場所だけを経巡っているような想念や知識をいくら振り廻していても、大宇宙の法則に乗り切ることはできないことを知っていることである。大宇宙の法則に乗って生きてゆかなければ、この狭い肉体世界での生き方を正しく行じてゆけないことを知るということである。」

●「天地のように計り知れない力をもちながら、その場、その時々こ

即応した力を出してゆへようになければいけない。つまり中庸の道を守って生きてゆかねばいけない。」

しかし「中を守る」というような行為は、現代のようになら社会国家の情勢が複雑になっている時代ではとても難しいので、中を守るなどという言葉をおさきにもってこないで、先ず中を守るような心の状態に、自然になり得る道先ずつけてやる必要がある。

その道が、世界平和の祈りの道なのである。世界平和ということはい、これは勿論大調和そのものである、宇宙神のみ心と全く一つのひびきをもちおるので、人類等しく望むところであり、右にも左にも片寄りな、い、中を守る道となるのである。

祈りによる世界平和運動こそ、真の中庸の道なのである。ですから、あまりむずかしく理論的にごうだ、こうだと 聖人の教えを考えるよりも、祈り一念の生活を乗り入れてしまった方が、すべての聖人の教えが生きてくるのである。」

宇宙の法則に乗ることで成果

「聖人という者は、そうした真理を知っているもので、霊身の自身を主

なる存在として、肉体身の自己を後回しにした生活をしてゆへ。霊身を主にして生きていけば、肉体身の生活の方は、自由自在に整ってくるのである。」

それをより具体的に説明されています。

「宇宙神のみ心と一つになっていると、自己を、自意識で世間に現わそうという必要もない。自己主張をすることもない。聖人は宇宙神のみ心と一つになっているので、自然法爾、そのまま生きていこうとする、自己の天命が自ら行われてゆへ。そういう心境になっていると、すすの事柄が鏡にうつるようになり、明らかになる。ゆえに殊更に、自らは認つて自己を認める必要もなければ、自己を誇ることもない。そうすると、ますます、功を積んでゆへになり、人と争うことも無い。そういう聖人にみんなが成れば、天下に争いは起こらない。」と。

神聖と肉体エネルギーの共鳴現象をつへ

宇宙科学の究明によつて、宇宙の法則を駆使し、神聖(宇宙神)の光を降ろすことができたのが神聖復活の印と言われている。

御業先生は、『白光誌』(2002年10月号)9ページにおいて宇宙

子科学の最終的な部分であり、我々の最後のミッションは、神聖のエネルギーと肉体エネルギーの共鳴現象をつくり、全人類に神聖を思い出させるエネルギーをこの地上界に降ろすことだと言われています。

「すべての生命が必要とするものとして、水がある。水は、水素(H)と酸素(O)の化合物である。水素と酸素が一緒になることで、この地球上に水(H₂O)という全く新たな物質が生まれる。

同じように、人類にとって必要なのは、宇宙神の大光明エネルギーと肉体エネルギーが神聖復活の印によって一つになると、地上を超えたエネルギーと肉体エネルギーの共鳴現象が起きることで、全く新しい、全人類に神聖を思い出させるエネルギーが生まれる。こうして神人たちは、地球のすべての生きとし生けるものを救済して、一体となる」と。

蓄積されたエネルギーを大光明の共磁場から引き出す

富士聖地の歴史によると、地球を守護する神々の神庭会議において、宇宙神の究極の光を降ろされるグループとして、唯一白光真宏会が選ばれ、私たちの祈り、印、呼吸法等によるご神事が2003年から遂行され、2009年7月5日の大神事において地球上で唯一、四次元の場合

と完璧に次元上昇を遂げ、大光明の共磁場が、完成されている。

それに伴い、私たち神人の意識は急速に高められたことに気がきます。

その進化の過程を追ってみましょう、

神人たちは宇宙神に直結する道への扉を少し開いた。富士聖地が次元に次元上昇する一年前の2008年において、神人達は宇宙神に直結する道への扉を少し開いたのである。

今まで聖者や賢者は別として人類一人一人が神や仏の道、宇宙神への道を直接行き来(交流)することは有り得なかったが、この宇宙神に直結する道への扉を開いた神人たちの出現により、一般の個人でも直接宇宙神とコンタクトが出来る時代に突入し、全人類が意識上昇、次元上昇する時が到来した。それは日本から始まるというご神示があった。

2010年の新年祝賀祭で、五井先生および大光明霊団、宇宙神の凄いエネルギーにより、私たちのチャクラは正しく開かれた。

2011年、神人が宇宙神の力と結びついた。

2011年2012年の7月に、二回にわたり、私たち会員は、昌美先生たちのご指導の下、天界に「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」の言霊をそれぞれ刻印することが出来た。

2012年7月大行事の大成就を果たした結果、これから生ずる大災難(政治経済の低迷、宗教対立、民族紛争、国家間戦争、疫病、原爆、テロ、あらゆる人智、あくなき欲望)にて作り出してきた大カルマによるを救いうる神力が調ったという秘神示があった。

2014年1月の新年祝賀祭において、「宇宙神の根源に汝らの魂は直結した」というご神示があった。

また、2014年に私たちの魂が宇宙神と直結し、我即神也の自分が表に出て、もう肉体感情にコントロールされない。すべてが成就する世界が、自分自身の魂によって表に出たというご神示があった。

五次元の扉が開かれた時、次のようなお言葉をいただいた。

「五次元というものは、考えても想像がつかないかもしれないが、自分自身が神性そのものであるということをつぶさと思ひ出す、思ひ出さざるを得ない、それが五次元なのである。どんな不安も恐怖もなく、仮にピストルの弾や天変地変が来ても、自分の次元が五次元にゆく。意識だけが行くのではなく、肉体もいつの間にか光の中に同化される。

それゆえどんな災い、どんな敵しい状況、どんな病原菌、どんな破壊にも侵されることはない。皆様方のミッションは完うされたのである。これからは絶対にこの世での不幸や欠けたるものはない。全部が完璧に

そろっていく。」

そして「またすべては完璧、欠けたるものなし、大成就」と唱えて、それにより、私たちの意識を内なる神性につなげ、これまで皆がこの言霊を唱えつつけて蓄積されたエネルギーを自由に使い、究極の真理「我即神也」の真理を体現していけばよい」というお言葉をいただいた。

これまでの富士聖地の歴史を振り返った時、地球の次元上昇のために働くことが出来たことに神人たちは誇りに思うと同時に、神様に使っていただいたという喜びと感謝で一杯になったことでしょう。

『富士宣言』(一人一人の宣言)にある、人間の本质である神聖なる精神と善なる心を復活させ、自らの上に顕現することを実行していく上で、私たち神人は人々の先頭に立っていくべきでしょう。

何故なら、私たちは、宇宙の法則を駆使して、神聖復活の印を組み、神聖のエネルギーと肉体エネルギーの共鳴現象をつくり、全人類に神聖を思ひ出させるエネルギーをこの地上界に降ろすことができ、また「すべては完璧、欠けたるものなし、大成就」と唱えて、それらにより、私たちの意識を内なる神聖につなげ、蓄積されたエネルギーを自由に使い、自分の周りを光明化することができるのですから。